

一般研究集会（課題番号：2020K-08）

集会名：災害リスクリテラシー向上による減災社会の形成のための研究集会

（防災計画研究発表会 2020/災害コミュニケーションシンポジウム 2020）

主催者名：国際総合防災学会 IDRiM Society

研究代表者：高木 朗義

所属機関名：岐阜大学 工学部

所内担当者名：畑山 満則

開催日：令和2年 9月25日、26日（防災計画研究発表会 2020）

令和2年 12月25日（災害コミュニケーションシンポジウム 2020）

開催場所：オンライン

参加者数：93名（所外87名，所内6名）（防災計画研究発表会 2020）

- ・大学院生の参加状況：11名（修士10名，博士1名）（内数）
- ・大学院生の参加形態：[発表者1名，運営補助1名，その他は聴講参加]
41名（所外39名，所内2名）（災害コミュニケーションシンポジウム 2020）

- ・大学院生の参加状況：12名（修士12名，博士0名）（内数）
- ・大学院生の参加形態：[発表者4名，運営補助2名，その他は聴講参加]

研究及び教育への波及効果について

本研究集会・シンポジウムは、産官学からの参加者が、防災・減災に関する課題に理論的、実践的にアプローチした際のプロセスを重視した研究発表講演会である。災害前、災害復旧期、災害復興期に行政・地域での支援型研究を実施した研究者の知見の集積を図ることで新たに露見された防災・災害対応の課題を認識し、総合防災研究のすそ野を広げる効果が期待できる。

研究集会報告

(1) 目的

社会の多様化が進んだ近年、防災・減災に関する課題は多岐に亘りかつ複雑である。誰一人取り残さないことを第一義に掲げたいと課題に取り組むためには、関連する異分野の専門家と非専門家である実務者が意見を交わす超学際的なアプローチが必要となる。本発表会では、専門家、実務者が行った実践的・理論的な研究・活動を様々な視点から討議し、災害対応・復旧・復興や防災・減災に関する課題解決や今後の展開について議論する。

(2) 成果のまとめ

防災計画研究発表会 2020 は、阪神・淡路大震災以降の災害の復旧・復興活動を通して立ち上がった NPO やその支援研究者、国際総合防災学会に所属する国際防災実践を行う研究者に加えて、環境防災に取り組む行政や研究者も参加した。複数個所で同時に水害・土砂災害が発生した平成 30 年 7 月豪雨災害を中心に学際領域にある課題とそれに立ち向かうための知識の共有を図ることができた。また、災害と医療というこれまでの研究会にはない課題についても議論がなされた。この課題は、病院、DMAT、水道局という多面的な実務者目線からの研究発表であり、新たな共同研究の種を作ることができた。今後、さらに頻度を増すと考えられている大災害に対して、極めて社会的意義の大きな研究集会であった。

災害コミュニケーションシンポジウム 2020 は東日本大震災以降の情報系の災害対応研究者、民間企業、李域実践活動家が参加した。東日本大震災から 10 年間の情報環境の変化によってできるようになったこと、まだできないことが議論された。また、IT を活用した危機管理に関する国際会議である ISCRAM の講演論文を紹介する勉強会も行われ、Society5.0 の実現を意識したシンポジウムとなった。

(3)プログラム

● 防災計画研究発表会 2020

9月25日(金)

10:30-10:40 オープニング

10:40-12:10 セッション1 (司会) 畑山満則

災害Ma a Sの必要性と実用化に向けた可能性について

富田洋史 (大日本コンサルタント)

災害時における社会・経済活動の多様な視点からの被災道路復旧優先度評価モジュールの試作

新井伸夫 (名古屋大学)

令和元年房総半島台風に伴う成田国際空港での被害に関する調査

竹林幹雄 (神戸大学)

13:00-14:30 セッション2 (司会) 高木朗義

コロナ禍における避難の考え方について

小山真紀 (岐阜大学)

異なる組織が協働する協働型災害訓練の8年間の経験と課題

後藤真太郎 (立正大学)

令和2年九州豪雨地盤災害調査状況報告

椋木俊文 (熊本大学)

14:40-16:10 セッション3 (司会) 杉浦聡志

大規模な影響が交通に及ぶ自然災害時のマネジメントの論考-平成30年7月豪雨での実践から-

神田佑亮 (呉工業高等専門学校)

地域封鎖と住民の生活 ベトナム ソンロイ村の封鎖を事例にして

伊藤秀行 (減災ロジスティクス研究所)

令和2年7月豪雨における災害対応と支援について

竹内裕希子 (熊本大学)

16:20-17:20 総合討論

高木朗義 (岐阜大学), 畑山満則 (京都大学防災研究所)

9月26日(土)

9:00-10:30 セッション4 (司会) 廣井慧

Gomory-Hu木を用いたカット容量構造に基づくネットワーク脆弱性分析

杉浦聡志 (北海道大学)

平成30年7月豪雨において岐阜県飛騨市の住民避難率はなぜ高かったのか?

高木朗義 (岐阜大学)

災害対応のための並行時空管理基盤の構築

畑山満則 (京都大学)

10:40-12:10 セッション5 (司会) 藤見俊夫

熊本地震からの復興における公民館の役割に関する考察

田中尚人 (熊本大学)

シグナリング・ゲームによる津波避難時の助け合い行動のモデル化

中居楓子 (名古屋工業大学)

断水時における災害拠点病院の事業継続に関する調査報告

松原悠 (京都大学)

13:00-14:30 セッション6 (司会) 畑山満則

被災者としての交通事業者と資産退避

奥村 誠 (東北大学)

人口減少下での気候変動適応戦略について

多々納裕一 (京都大学)

令和2年7月水害による人吉市の被災状況と芦北ボランティア活動状況の報告

藤見俊夫 (熊本大学)

14:40-15:40 全体討議

高木朗義 (岐阜大学), 畑山満則 (京都大学防災研究所)

15:40-15:50 クロージング

● **災害コミュニケーションシンポジウム 2020**

09:30~09:40 開場/開会の辞

09:40~10:50 ISCRAM 勉強会

An Introduction on "A Delphi based approach for analysing the resilience level of local Governments in a Regional Context"

Manzu Gerald Simon Kenyi (電気通信大学)

"LoRa-based Device-to-Device Smartphone Communication for Crisis Scenarios"の紹介

前田泰輝 (滋賀大学)

"Empirical Study of Individual Evacuation Decision-making in Fire Accidents: Evacuate Intention and Herding Effect"の紹介

小西 杏奈 (和歌山大学)

"Rapid Damage Assessment Using Social Media Images by Combining Human and Machine Intelligence"の紹介

内田 理 (東海大学)

"Science Fiction: Past and Future Trends of Crisis Management"の紹介

爰川 知宏 (東京国際工科専門職大学)

"What I Need to Know is What I Don't Know!": Filtering Disaster Twitter Data for Information from Local Individuals"の紹介

澁谷 遊野 (東京大学)

"Fighting for Information Credibility: An End-to-End Framework to Identify Fake News during Natural Disasters"の紹介

五郎丸 秀樹 (千葉工業大学)

"Toward a Theory of Situation Awareness in Dynamic Systems"の紹介

村山 優子 (津田塾大学)

10:50~11:10 IFIP 関連報告および ITDRR2021 (盛岡開催) の紹介

村山 優子 (津田塾大学), 佐々木 淳 (岩手県立大学)

11:10~11:40 <研究紹介>

防災を考慮した水中調査の一考察

松本 直人（さくらインターネット研究所）

11:40～12:10 <研究紹介>

A proposal of autonomous wireless mesh network with autonomous mobile robot for sustainable smart-rural

柏崎 礼生（国立情報学研究所）

13:00～13:40 <基調講演 1>

東日本大震災からの10年間の災害と活用された情報技術

畑山 満則（京都大学防災研究所）

13:40～14:20 <基調講演 2>

東日本大震災を教訓とした地域防災への取り組み

越野 修三（岩手大学客員教授）

14:20～15:00 <基調講演 3>

災害時の情報支援とコミュニティ

佐藤 大（東北医科薬科大学／IT DART）

15:10～15:50 <基調講演 4>

タワーマンション・住民組織による災害対策

海老澤 健太郎（管理組合理事長）

15:50～16:10 <研究紹介>

3D-GIS で確認するこれまでの10年の災害と、これからの10年に向けての対応

宇津木 慎司（土木地質コンサルタント）

16:10～16:50 <研究紹介>

ECクラウド運営事業者が経験したコロナ禍の出来事

橋本 圭一（株式会社Commerble）

16:50～17:40 パネルディスカッション：この10年から次の10年に向けて

17:40～17:50 閉会の辞

(4) 研究成果の公表

<http://dimsis.dpri.kyoto-u.ac.jp/IPwiki/index.php?forum2020> にて概要を公開中